



写真報告

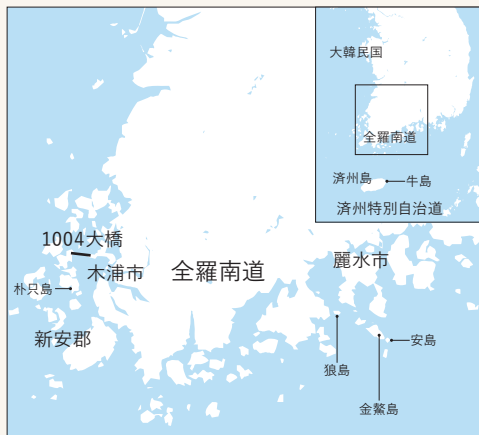
韓国の島々 海外離島調査より

日本離島センターでは、2023年10月15日から21日までの7日間、

「離島振興政策と活力ある島々の地域づくり」をテーマに、467の有人島を有する大韓民国の

全羅南道モッポ シナン ヨス チェジュ木浦市・新安郡、麗水市・済州特別自治道を対象とした「海外離島調査」を実施した。

白川博一長崎県杵岐市長、上村俊之愛媛県上島町長はじめ、離島関係市町村職員など9人が参加した。



1. 新安郡の「カラーマーケティング」構想により来島者が急増している「パープルアイランド」の一つ、朴只島(バクチド)。
2. 安佐島(アンチャド)から朴只島へ、紫色のものを身につけて歩行者専用橋を渡る。

シ ナ ン 新安郡 / 韓国島振興院

韓国南西部・木浦市に隣接する新安郡は1,025島(うち有人74島、人口約3.8万人)を擁する島だけの自治体で、ソフト事業によるブランド化や再エネ年金など先駆的な振興策を実施している。「島発展促進法」(※)に基づき2021年に木浦市に設立された政府の専門機関「韓国島振興院」は、島の価値や暮らしの質の向上のための政策研究や交流・振興事業を展開する。

※「島嶼開発促進法」(1986年施行)が2020年島発展促進法に改称。
済州特別自治道本島などをのぞく有人371島が開発対象島に指定。



3. 新安郡の島発展政策を説明する朴禹良(パク・ウリャン)郡守。
4. 本土側地域と島地域を国道として結ぶ「1004(チヨンサ)大橋」(橋長7.2km、2019年竣工)により、現在9島が本土と陸続きになっている。
5. 木浦市にある韓国島振興院の展示室にて、白川杏枝市長と吳東浩(オ・ドンホ)同院長(右)、朴洪律(パク・ホンリョル)木浦市長(左)。
6. 韓国島振興院で開催された「日韓島政策セミナー」にて、備前市の藤田政宣副市長による島の現況発表。日本側からは全参加者が各島での取り組みなどを報告した。
7. 韓国島振興院の屋上テラス「ムーンライトルーフトップ」からの眺め。
8. 60名以上の職員が勤務する韓国島振興院。

5



8



6

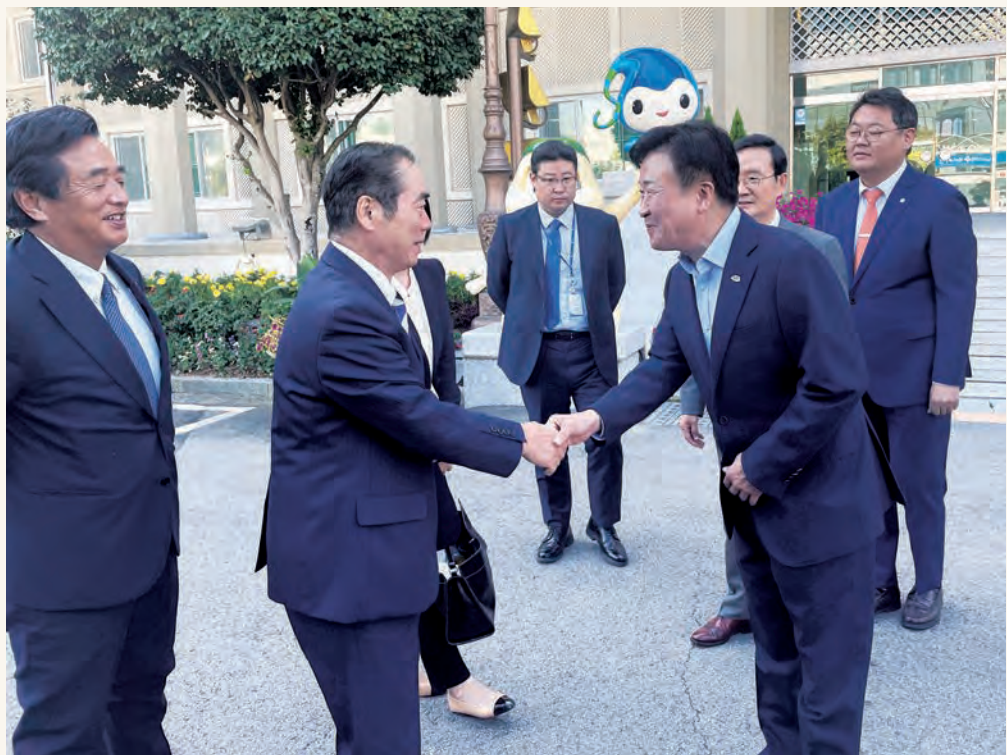


7



麗水市 — ナンド・クモド・アンド

韓国南岸の拠点都市である麗水市(人口約28万人)には365の島々(うち有人46島)があり、住民主体の計画実現を支援する「島地域特性化事業」や、持続可能な環境保全型観光を導入する「行きたい島づくり事業」などの振興策を推進している。





9. 麗水市の鄭琦明(チョン・キーミン)市長から市庁舎前で歓迎を受ける白川杏岐市長(左から2人目)と上村上島町長(左)。同市では2026年に「世界島博覧会」の開催を計画している。
10. 「イレブンブリッジ展望台」から屯兵(トンビョン)大橋を望む。麗水市本土から宇宙センターのある高興(コファン)郡まで早発島(チョバルド)、屯兵島、狼島(ナンド)、積金島(チョグムド)を経て橋でつながった。
11. 狼島の南に位置する沙島(サド/35人)、鯨島(チユド/1人)にも架橋構想があるという。
12. 狼島の老舗マッコリ醸造所にて。2019年に橋が開通し、現在は年間約5万人が訪れる。
13. 金鯊島(クモド)はトレッキングの島として知られ、2022年には38万人が来島。「島観光コンテンツ開発事業」(5年間で地域全体事業費約23億円、道・市が各50%負担)で産道(トレッキングコース)を整備。
14. 水産物加工やキャンプ場運営に取り組む「安島(アンド)村協同組合」(2020年設立)は、生活困窮者に就業先を提供する仕組み。
15. 麗水市官用船で視察先の島へ移動。船内で通訳を介して生活の実態や市の取り組みについてヒアリング。
16. 安島の細い路地。カラフルに塗られた壁。

济州特別自治道 — 济州島・牛島

2006年制定の「济州特別法」により、韓国内の他の自治体とは異なる独自の発展を模索する济州島(人口約66万人)。その沿岸と沖合に「島発展促進法」の対象となっている8つの小離島が点在し、なかでも牛島(人口約1,600人)は映画やドラマのロケ地としても知られ、国内外から多くの来島者を集めている。



17



18

17. 「济州環境資源循環センター」では島内の廃棄物処理を一手に担う。背後には発電用風車が立ち並ぶ。
18. 「黒い砂浜」を意味する牛島のコムモルレ海岸。
19. 脱炭素島(Carbon Free Island)を目指す济州島。将来的には韓半島にエネルギー輸出をする計画。
20. 牛島行きフェリーが発着する世界自然遺産「城山日出峰」近くの济州島・城山浦港。平日にもかかわらず多くの観光客が乗船。
21. 牛島の概況などについて解説する金哲秀(キム・チヨルス)牛島面住民自治委員長。
22. 牛島で観光客に人気の2人乗り電気バイク。カラフルでポップなデザイン。
23. デポジット制によりプラスチック容器の再利用を図る「U-do! UDOプロジェクト」。

19



21



20



23



22



国立海洋文化財研究所

木浦市にある韓国文化財庁の研究所で、2018年に「朝鮮時代通信使船(※)の学術復元研究」として復元船を建造。2023年夏には「対馬厳原港まつり」の際に来航、今後も日韓親善のため活用するという。

※朝鮮通信使(江戸幕府の招請により朝鮮から日本へ派遣された外交使節団)は1607年から1811年にかけて12回来日、対馬島や瀬戸内海の島々に寄航しながら大坂に上陸、陸路で江戸に至った。



25



24



26

24. 研究所の展示物は引き揚げた沈船やその遺物など2,000点にもものぼる。

25. 復元船内で説明を受ける白川町岐市長(左)ら。

26. 木浦の海と復元船を背景に。日韓両国では「朝鮮通信使に関する記録」としてユネスコ「世界の記憶」に関連資料が登録されている。